

# 写真アルバム 西神戸で春を探す 2011. 3月

春を告げる カタクリ・雪割草・寒葵・土筆 みんな 「東北頑張れ」「日本頑張れ」と

2・3月上旬の厳しい寒さがつづいて、春の花便りが遅れましたが、3月下旬 梅の花がさきだし、やっと春が感じられるようになりましたが、3月11日 未曾有の関東・東北大震災に原発事故。ほんとうに大変なことになりました  
お見舞い申し上げます。

そんな厳しい春に 郷では 土筆がみんな顔を出し、山の北斜面で 枯れ落ち葉の中から清純な雪割草 枯葉をそっとどけると寒葵そして それらに囲まれて すくと立ち上がって 冷たい風に身を震わせる「カタクリの花」 みんな 「東北頑張れ」「日本頑張れ」と

例年の春とはちょっとちがった神戸からの2011年春の花便りです



かつて山野草の宝庫だと教えてもらった雌岡山の北斜面に咲く 左: カタクリ 中央: 雪割草 右: 寒葵



須磨 旗振山からみる須磨海岸 左: 東の神戸市街地 右: 春の日差しを受ける明石海峡



土筆の群生地 西神戸 性海寺集落の奥の谷間の田園地で 2011.3.29.

【春霞の中 ゆったりした時がながれる 春の明石海峡 2011.3.22.】



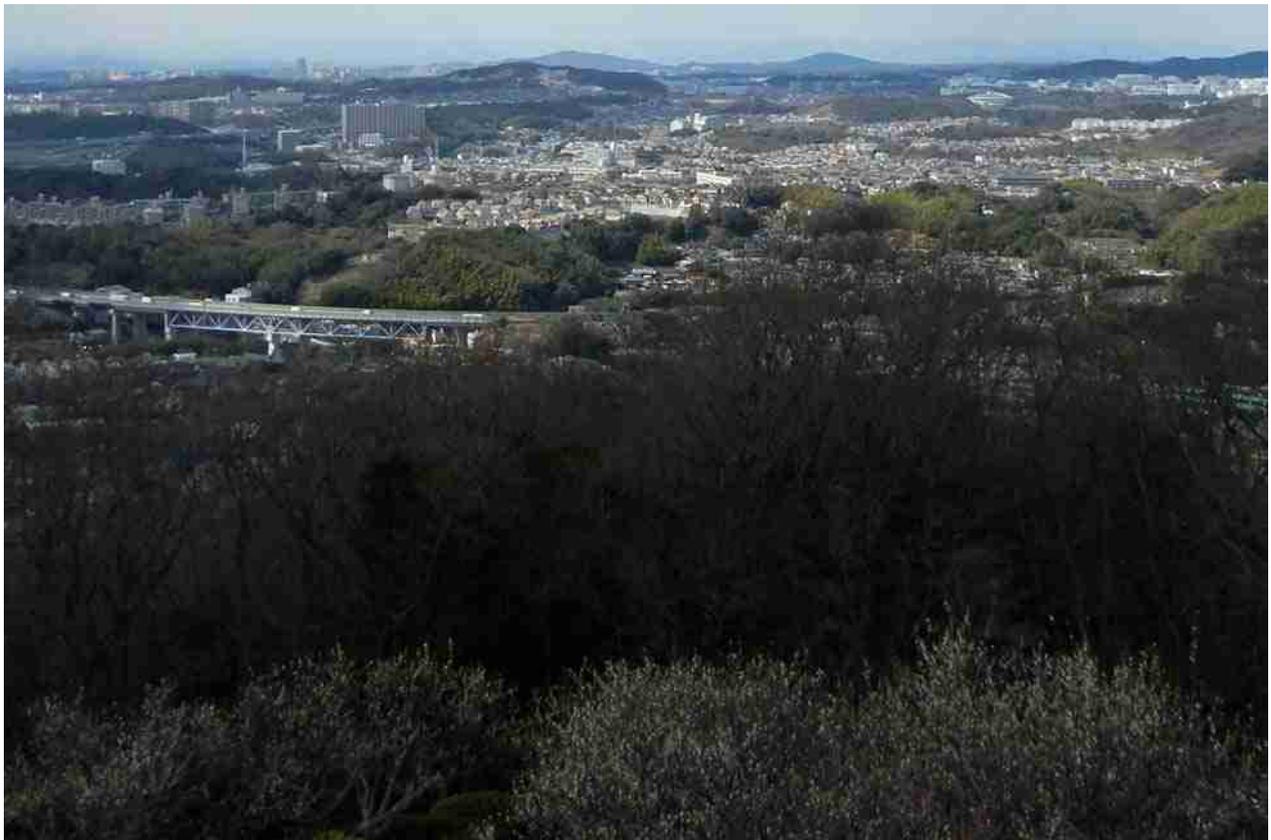
明石海峡 春の風物詩  
↓  
いかなご漁の船団がみえる

明石海峡の春 いかなご漁の船団も海峡から播磨灘に漁場を移し、春到来です 2011.3.22.

毎年 早春の西神戸の話題を独占する春の風物詩「明石海峡のいかなご漁といかなごの釘煮」。

今年は 関東・東北大震災と原発事故で それどころでなくなって……。気分もそぞろの中での釘煮づくり

いつの間にか いかなご漁は 大阪湾・明石海峡から播磨灘へ移って もう終わり。厳しい雰囲気の中での春到来です



須磨 旗振山 満開の梅林より 北側に広がる西神ニュータウン

背後に三角の形をした二つの山 雌岡山・雄岡山が浮かんでいる

西神戸・明石海峡の北 子午線上に美しい三角形状で東西に並んで立つ 信仰の山 雌岡山・雄岡山

この山が かつては山野草の宝庫 今 この山で消滅しそうな山野草の復活をすすめるひとたちがいる。

この山の北斜面で 春を告げる雪割草・カタクリの花に出会えました

【西神戸 神出雌岡山に咲く春の山野草 雪割草・寒葵・カタクリの花に出会えました 2011.3.29.】

つい最近 頂上に古代の鍛冶神 大己貴を祭る神出神社があり、鍛冶伝説を持つ神奈備山 雌岡山で 春になるとカタクリが咲き、かつて山野草の宝庫だったこの山の花を復活させようと取り組んでいる人たちがいると知り、この春 何度か訪ねました。

氷河期の生き残りカタクリの花 冷たい風に顔を向け身を震わせて立ち向かう姿が大好きな花  
かつて この山には 春になると雪割草 カタクリなどの山野草が咲き乱れ、花が咲き出すとこの地の娘たちがこれらの花を見に山に入り、この山の社にお参りし、良縁を願ったという伝承が残っています。



カタクリの南限は兵庫県と聞きましたので、この地に咲くカタクリは南限の花か・・・。

もう カタクリの花が咲き始めたか? と訪ねた 3月27日 山の斜面一杯に咲く雪割草に囲まれて カタクリの花が一輪 咲いているのを見つけました。



雪割草の中に咲く「カタクリの花」一輪  
西神戸 神出 雌岡山で 2011.3.28.



春到来を喜ぶ「雪割草」  
2011.3.28. 西神戸 神出 雌岡山で





雌岡山の山の斜面に咲く雪割草 2011.3.22.

【西神戸 神出 雌岡山の草地で タンポポとホトケノザ 2011.3.28.】



西神戸 神出 雌岡山の山腹の草地に 春を告げる黄色いタンポポと赤紫の「ホトケノザ」が群生 2011.3.28.

【西神戸 性海寺集落の奥の山際の田圃で土筆の群生地を見つけ、土筆採り 2011.3.29.】



西神戸 性海寺集落の休耕田に群生して 田圃全体を赤紫色に染める「ホトケノザ」の群生 2011. 3. 29.

西神戸 ニュータウンの北西 性海寺集落へ入るところの田圃全体が赤紫色。 はじめ蓮華ではないかと思ったのですが、どうも感じが違う。神出の畑で 蓮華と見間違えて、畝一つがこんな感じになっていて、珍しくて、調べると春の七草のひとつである「ホトケノザ」とは異なる「ホトケノザ」というのだそう。 よく見るとやっぱりそれでした。

畑の畔や山裾の草原などで見る「ホトケノザ」がこんなに群生して畑一杯を埋め尽くしているのを見るのは初めて。

これも 春の情景のひとつか・・・

私はたべないのですが、「土筆」が大好きで目がないカミさん。

「性海寺の集落の奥の谷間の田圃で 両手の袋一杯採っている人にてあったよ」というと是非 連れてゆけという。 土筆は田圃の畔か道端と思っていましたが、土筆を取っていた人たちは畔と言うより、耕作を放棄した山際の田圃の中。

「ちょっと軟弱地でぬかるんでいる場所で長靴か 水はじく靴がええ」と靴を準備して出かけました。

「何ほでも これから出てくる」という。雑草の中に 次々と 頭をもたげていました。こんなに沢山 群生しているのを見るのは 数年前 近江八幡の湖岸近くの畑以来。家内はビニール袋一杯採って 息子の家にも配って その晩 炒めた土筆をほおぼりながら「これで 春や」と。



土筆の群生地 西神戸 性海寺集落の奥の谷間の田圃地で 2011.3.29.